

BED200 留学セミナー

2年 1クォーター/2年 3クォーター/3年 1クォーター

担当教員	小幡浩司 (KOBATA, Koji)
授業形態	講義(60分) *引き続き30分間で交換留学手続きに関するオリエンテーションを実施する
アクティブ・ラーニング	該当しない
単位数	1
曜日・時限	金曜日・3時限/金曜日・4時限

授業概要

国際地域学部では、異なる価値観や世界観の相互理解と認識の下、互いに協力して諸問題を解決し、共通の目的を達成することで地域社会および国際社会に貢献できるグローバル人材の育成を学部創設のミッションとしており、留学はカリキュラムの重要な柱の一つである。留学を通して学生は、英語をはじめ外国語による卓越したコミュニケーション能力、異文化理解力、そして専門能力を身に付けることが期待されている。

この授業は、次学期留学予定全学生を対象とした必修科目であり、留学資格を審査する最終の場である。したがって、不合格の場合、留学は中止となる。使用言語は英語。授業の目的は、学生が留学で達成する個々の目標と、そのための計画を具体的かつ明確に立てること。次に、目標達成と成功裡な留学を可能とすべく、講義、ディスカッション、グループワークを通じて、学業面、生活面、安全面等について十分な準備をさせることである。

授業では、ゲストスピーカーを適宜招聘し、専門的知識を身に付け、思索を深める。さらに、留学帰国生、留学生を招聘し、彼らの体験を共有することで、自らの留学をさらに現実的にシュミレーションし、ある場面に遭遇した時の具体的対応策や行動の方向性、想定内外の問題にどう対処するかについて考え、準備させるような取組も行う。また、交換留学にかかる一切の手続について、遅延無きよう終了すべく、その進捗を管理する。

到達目標

- 1) グローバリゼーションと世界の高等教育の潮流、そしてグローバル人材について考察する。
- 2) 交換留学制度と大学の国際化、さらにグローバル人材育成との関係性について考察する。
- 3) 留学における個々の目標を定め、留学のアウトプット、アウトカムについて考察する。
- 4) 留学先大学について調査し、履修計画、単位認定について計画を立てる。
- 5) 留学先国の文化、歴史、社会、政治、経済や、Current Issues について調査分析する。
- 6) 異文化で生きること、について異文化コミュニケーションの観点から考察する。
- 7) メンタルヘルスの維持、安全確保、そしてリスク回避について知識を深める。
- 8) 文化・伝統・歴史など、日本について発信できるよう見識を深める。また、「現代日本の争点」なども、自ら興味あるトピックについて選択し学習する。

先修科目

なし

教科書・参考資料等

- 1) Ross Lewin. (2009). The Handbook of Practice and Research in Study Abroad: Higher Education and the Quest for Global Citizenship. New York, NY: Routledge
- 2) Stacie Nedadowski Berdan, Allan Goodman, Sir Cyril Taylor GBE. (2013). A Student Guide to Study Abroad. New York, NY: The Institute of International Education
- 3) Hans-Dieter Kligenmann, Ewa Kulesza, Bob Reinalda. (2006). The Bologna Process - Harmonizing Europe's Higher Education: Including the Essential Original Texts (2nd Revised Edition. Barbara Budrich Publishers
- 4) Eva Maria Vögtle. (2014). Higher Education Policy Convergence and the Bologna Process: A Cross-National Study (Transformation of the State). Palgrave Macmillan

- 5) Paul L. Gaston. (2010). The Challenge of Bologna: What Unites States Higher Education Has to Learn from Europe and Why It Matters that We Learn It. Virginia. Stylus Publishing
- 6) David Killick. (2014). Developing the Global Student: Higher Education in an Era of Globalization (Internationalization in Higher Education Series). New York, NY: Routledge
- 7) Joseph Shaules. (2015). The Intercultural Mind: Connecting Culture, Cognition, and Global Living. Intercultural Press
- 8) 青木保「異文化理解」2001 岩波新書
- 9) 青木保「多文化世界」2003 岩波新書

授業の方法

この授業は講義形式にて進める。トピックに応じたディスカッションには、積極的参加が求められる。さらにゲストスピーカーによる講義や、留学生、留学帰国生を招聘しグループワークも取り入れる。

成績評価

成績評価は以下3点で行うものとする。

- ① 積極的授業参加：授業内で行うディスカッション、発表、グループワークへの積極的参加。リーダーシップ力、発信力、調整能力、協調性、独自性等を評価する。
- ② 1st エッセイ：質問に対し、エッセイ形式で回答する。Take Home Exam とし執筆に約2週間の期間を与える。問題配布は第5回目、提出は第7回目の授業。
- ③ 2nd エッセイ：質問に対し、エッセイ形式で回答する。Take Home Exam とし執筆に約2週間の期間を与える。問題配布は第11回目、提出は第13回目の授業。

なお、エッセイは提出後、10日以内に採点し、返却する。

成績

20%	授業参加
40%	1 st エッセイ
40%	2 nd エッセイ

授業スケジュール

第1回：授業概要説明

授業概要を説明すると同時に、グローバル化と国際化について議論・考察する。

第2回：流動性(Mobility)：世界の高等教育の潮流とグローバル人材育成

1999年のボローニャ宣言と欧州高等教育圏形成、また、それに続く世界の高等教育のブロック化、この潮流を通してグローバル人材について考察する。

第3回：交換留学制度と大学の国際化、そしてグローバル人材育成

交換留学の哲学、制度設計、そして学术交流(交換留学)協定締結の意味とその狙いについて概観し、大学の国際化とグローバル人材育成について考察と理解を深める。

第4回：留学の目的

個々の留学の目的は何か、何をどのように達成するのか、留学をどのように自らの将来、キャリアにつなげるか、より具体的で明確な答えを模索する。

第5回：履修計画と単位認定

留学先大学のカリキュラム、教務システム、および学生サービス、また、福井大学の単位認定制度について熟知する。この回の授業までに、指導教員の承認を得た履修計画・単位認定計画表を提出する。この表の作成にあたっては、教員の指導の下、卒業までの履修計画と、単位認定を前提とした留学期間中の履修計画を立てる。履修計画には、first group と second group (代替案)を準備すること。

第6回：留学先国の研究

留学先国の歴史、文化、政治、経済、社会、また、(現在)世論の関心を集めている問題(Current Issues)、日本との関係等について調査・研究した内容をまとめ、グループ内でプレゼンテーションを行う。お互いの発表や質疑応答での新たな発見を留学先国に対する更なる深い学びにつなげることが期待される。

第7回：「異文化に生きる-①」

カルチャーショックのメカニズムとU型・W型曲線の異文化適応のプロセスを学び、留学期間中に想定される心理的な変化について理解を深め、カルチャーショック状態から脱するための具体策について考える。また、自分の考えをグループディスカッションを通して共有し、危機回避の方法についてさらに考察を深める。

第8回：「異文化に生きる-②」

異文化理解と異文化受容について学び、多文化共生について考察する。留学先国の見える文化、見えない文化を調べ、異文化受容について考える。さらに、グループディスカッションにてお互いの発見を共有し、異文化受容と多文化共生について理解を深める。

第9回：「異文化に生きる-③」

留学生の日本での経験、帰国学生の留学期間中の経験を共有し、彼らが異文化に生活する中でこれまで直面してきた物理的・精神的問題はどのようなものであったか。また、それらの問題をどのように解決してきたか等、について学ぶ。心の動きと葛藤、そして、アクションについて彼らの貴重な体験を共有する。その中で、各学生は、留学を成功裡なものとするため、それぞれの「鍵」を模索する。

第10回：メンタルヘルスマネジメント（心の健康管理）

ゲストスピーカーを招聘し、心の健康管理について専門的な知識を学ぶ。精神的疲労、ストレス、そして悩みなど、どのようにそれを軽減し、精神的健康を維持するか、まず講義で学び、次いで、グループディスカッションにてさらに理解を深め、各個人それぞれの具体的予防策を考えます。

第11回：危機管理①

福井大学の危機管理体制と、危機管理の取組について学ぶ。平常時、および疾病、事件、事故などの緊急時の対応、また、自然災害、政情不安、伝染病・感染症の蔓延などのような場合の安全確保について、具体的な事例を通して学ぶ。学生は、外務省安全ホームページや留学先国日本大使館ホームページなどから事前調査した留学先国および周辺国・地域についての安全情報をグループディスカッションで発表し、情報共有を行う。

外務省安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

US Department of State <http://www.state.gov/>

法務省：米国国務省報告

http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri03_00007.html

世界保健機関（WHO: World Health Organization）<http://www.who.int/en/>

第12回：危機管理②

ゲストスピーカーを招聘し、専門的な見地から危機管理についての知識を身に付ける。

第13回：留学とキャリアデザイン

留学を自らのキャリアにどう生かすかについて考える。企業からゲストスピーカーを招聘し、留学において学生に期待すること、また、企業が求めるグローバル人材像について講演をいただく。

第14回：Current Issues of Japan【日本の争点】

この授業の冒頭で、日本の(国内外)争点（例：国内の経済格差問題、極東アジア情勢、等）についてトピックを選択し、調査するよう指示された内容について、グループディスカッションにて発表し、その内容を共有する。また、それぞれが調査・研究した内容は期末試験のエッセイ問題でもある。

第15回：総括

交換留学にかかる全ての手続き、個々の達成目標や留学計画など、取り上げたトピックについて十分な準備が出来たか確認する。

事前・事後学習

- ① 授業の項目は教科書・参考資料等にあげた項目に対応している。講義聴講の前に、対応する項目を一読すること(予習)。
- ② 講義聴講の後に、講義された内容・配布資料と共に対応する教科書・参考資料等の項目について理解を深めること(復習)。